TOKYO 2020 オリンピック

ウルフ 気迫の金

朝日新聞
2021年（令和3年）
7月29日
木曜日

五輪号外

柔道男子100キロ級 21年ぶり頂点

東京五輪は29日、柔道男子100キロ級でウルフ・アロンが金メダル。この階級の優勝は2000年シドニー五輪の井上康生（現日本代表男子監督）以来、21年ぶり。

17年世界選手権優勝のウルフは、初戦の2回戦でムハマトカリム・フラモフ（ウズベキスタン）に浮き技で一本勝ち。準々決勝ではペテル・パルチク（イスラエル）から大内刈りで技ありを奪い優勢勝ちした。

準決勝は、一つ下の90キロ級で16年リオデジャネイロ五輪銀のバルラム・リパルテリアニ（ジョージア）に優勢勝ち。決勝は18年世界選手権優勝の趙グハム（韓国）と対戦し、延長の末に大内刈りで一本勝ちした。

ウルフは「練習量という部分だけは誰にも負けない自信があった。接戦になればなるほど僕の持ち味が出てくると信じて戦った。僕は泥臭い柔道なので、最後まで貫いて勝つことができてよかった」と語った。